

放課後等デイサービスに係る事業所の自己評価結果(公表)

令和3年3月1日公表

事業所名 放課後等デイサービスほっぷ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が訓練指導室等スペースとの関係で適切である。	○			
	② 職員の配置数は適切である。	○		作業療法士(非常勤)を確保し、児童の発達支援を図っている。	
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている。	○		建築時(H28年12月)において建物のバリアフリー化に配慮している。	
業務改善	④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している。	○		職員のミーティングに於いて確認するようにしている。	職員の学習能力を高めてコミュニケーションを図るように心掛ける。
	⑤ 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている。	○		保護者様からの評価を基に職員間の話し合いを持ち、業務の向上を図るよう心掛けている。	評価情報を共有し業務改善を進め行く。
	⑥ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している。	○		ホームページ及び事業所の掲示板で公開しているほか、広報誌に連載し周知を図っている。	
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている。		○		課題を整理し、外部評価を検討して行く。
	⑧ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している。	○		県、市及び関係機関が実施する研修会等に対して積極的に参加している。	
適切な支援の提供	⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している。	○		作業療法士の助言等も活用している。	
	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るため、標準化されたアセスメントツールを使用している。		○		不十分な点について整理し、職員間で理解を深めて対応して行く。
	⑪ 活動プログラムの立案をチームで行っている。	○			
	⑫ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している。	○			
	⑬ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題を決め細やかに設定して支援している。	○			課題を細やかに設定出来ないので改善していく。
	⑭ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している。	○			
	⑮ 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している。	○			
	⑯ 支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している。	○		支援の終了後は難しいので次の日に行うようにしている。	
	⑰ 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている。	○			
	⑱ 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している。	○			
	⑲ ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている。		○		職員間での認識や情報の共有を図るようにして行く。

関係機関や保護者との連携関係	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している。	○			
	㉑	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている。	○		利用者が通学する学校と情報の共有を図るよう常に心掛けている。	
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている。	○			
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている。		○		環境整備に努めて行く。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している。	○		支援会議等の場において情報の提供に心掛けている。	
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている。	○			
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある。		○		条件整備を図りながら対応して行く。
	㉗	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している。	○		役職も引き受けて積極的に参加している。	
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者に伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている。	○		保護者との面談や家庭との連絡帳を活用して情報の共有に努めている。	
保護者等への説明責任等	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている。	○			職員間で話し合いながら支援を検討して行く。
	㉚	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている。	○			個別の説明のほかにも保護者との面談や懇談会においても説明するようにして行く。
	㉛	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている。	○			
	㉜	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している。	○			
	㉝	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している。	○			
	㉞	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している。	○		毎月会報を発行するとともに事業所のホームページにも掲載するようにしている。	
	㉟	個人情報の取扱いに十分注意している。	○			
	㊱	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている。	○			
	㊲	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている。		○		地域の団体とも連携を図るように行う。
非常時等の対応	㊳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を作成し、職員や保護者に周知する。	○		保護者懇談会等の際に内容を説明するように心掛けている。	作成したすべてのマニュアルの周知徹底を図るように行う。
	㊴	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている。	○		春と秋に消防署の指導の下で、火災避難訓練と消火器の操作訓練を実施している。	
	㊵	虐待を防止するため、職員の研修会を確保	○			

	する等、適切な対応をしているか。				
④	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している。	○			
④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がなされている。	○			
④	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している。	○		ヒヤリハット記録の作成により職員間の情報の共有を図り、事故防止に繋げるよう必ず話し合いを持つことにしている。	